

入選

小さな勇気の大切さ

千葉県 大津ヶ丘中学校
1年 殿木戸 蛍奈

「あ、どうしよう……。」

私の頭の中には、この言葉しかありませんでした。みなさんは、大きな決断に迫られたことはありますか？これは私が、小学4年生の時の話です。私の母は昔からミュージカルが好きで、いつしか私も好きになっていました。母と2人で電車に乗って、観劇しに行くのが楽しみでした。

いつものように、ミュージカルを観に行く途中のことです。電車にゆられながら、少しウトウトしていたとき、私の目の前で、ガシャンと大きな音になりました。その音で眠気が一気になくなり、おどろいて音のなった方を見ると、お年寄りの方が眼鏡を落としたことに気づかず、電車を降りてしまいました。

あいにくその電車が空いていて、「私以外に届ける人はいない！」と、とっさに体が動きまわりました。まだ扉は開いていたので、私は、「おばさん！眼鏡落としましたよ！おばさん！」と必死に叫びました。

それでも私の声は届かず、おばさんはどんどん進んでいき、階段を登って行ってしまいます。

「どうしよう、届けたいけれど、扉が閉まって置いて行かれちゃうよ……。」

こんなことを考えている間、おばさんは進んでいくし、電車の扉が閉まる時間も迫ってきて、ただただ時間が過ぎていきます。

もし、私が電車を降りても間に合わなかったら、さらに「母と離ればなれになってしまったらどうしよう」という不安もよぎり、私の体を止めていました。私は初めてのできごとで、少しパニックになっていました。もうこのまま、何もできないで扉が閉まってしまうのだろうかと思うと、届けられなかったおばさんへの申し訳なさや悔しさが同時に込み上げ、あきらめかけていたそのときでした。

私の乗っている車両のお兄さんが、その駅でたまたま降りるところだったのか、

「あの人ですよ。僕、届けますよ。」

と言って眼鏡を持って走って行きました。その言葉のおかげで、私の心は一瞬で不安から安心に変わりました。ですが、ほっとしていると、なぜ届けることができなかつたのか後悔しはじめました。もし、もっと早く決断していれば、お兄さんに迷惑かけなかつたと落ち込んでいたら、母が、

「よかったね。だって蛍奈が呼び続けていなかつたら、お兄さんも気づいていなかつたよ。」

と言いました。そこで、私はあることに気づきました。直接人助けできなくても、助けようという気持ちがあれば、巡り巡って人を助けられているということです。

そのできごとがあつてからは、どんなに小さなことでも人が困っていたら、率先して助けるようにしています。そのため、これは私にとってとても良い経験になりました。

人助けをすると、した方もされた方も良い気分になるので、みなさんもぜひ小さな勇気を出してみてください。